

「街との関係」とその主人公NPO

財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
アシスタント・プログラムオフィサー
西野 聖子

○はじめに

ここ数年ずっと気になっていること それは「街との関係」についてである。まちづくり活動をしている団体と地域の間にある、「つながり」の発見がとても面白い。人は人とつながり合いながら、またそれを欲しながら生きている。しかし時として、むしろ近年は、つながりを断って個に閉じこもりがちなのもまた人間ではないか。だから、「つながり」の発見は私を魅了しつづける。私は、心豊かな街並みづくりをしたいと思いこの道に進んだ。歴史的に価値のある建築物が並ぶような特別の地域でなくても、人の心を潤し、喜びを沸き立たせるような街を実現したいという思いは今も変わらない。しかし困ったことに、私は「街並み・景観」という言葉を使うと、どうしても観念の世界に浮遊し、ついつい頭でっかちになってしまう。何を指して景観というのか、景観を作る担い手は誰なのか、もともと私の身近な空間から出発した発想が、すぐにどこか別の地域の、あるいは架空の他人事になってしまう。これは、私個人としては現実に街並み問題に取り組む活動現場がないことが一因だと感じている。なぜなら、「街との関係」が深いと感じさせる活動は、まさしく観念ではなく現実感覚にあふれとても勢いがあるのだ。

○「街との関係 = つながり」

この一年間は、私は住民による防犯活動調査を担当した。その調査を通じて出会う方々の勢いある姿がとても印象的だった。オフィスに閉じこもって黙々と仕事をしていると、NPOだとかまちづくりを冷めた目でながめる自分がいる。私たちが関与している活動が全体の中でどれだけの意味をもつのだろうか、勝手な閉塞感を持ったりもする。しかし団体の方と出会い、再会した瞬間に受ける、こちらまでが元気になってしまう感覚は一体何だろうか。大げさを承知で言えば、この仕事に就いて良かったなと思う瞬間である。この団体の勢いの源こそ、地域との「つながり」に裏づけされた「街との関係」にあるのではないか。

第13回の助成対象団体からは話がそれるが、第14回から助成対象活動「地域の防災・防犯」として新たに加わった分野でもあるので、防犯団体の取り組みを元に話を進めたい。

防犯活動団体の勢いを、「つながり」で探ると以下の3点があげられる。

- つながり : 活動テーマと関心がつながる
- つながり : 人と地域(スミカ)がつながる
- つながり : 人と人がつながる

○つながり : 「活動テーマと関心がつながる」

近年、日本は犯罪に対する不安感が急速に高まっていると言われている。事実、防犯に関する特集が色々なマスメディアで生まれ、住民自身による夜間パトロールなどの防犯活動も各地で展開されている。

大阪府堺市のとある団体を訪問した時のこと。その地域では、街中を数百人規模で練り歩くパトロールを実施していた。100人、200人は当たり前で、多い時は400人が集まるというから驚きだ。この大規模パトロールが軌道にのるま

では、中心リーダーの地道な声掛けがあったのだが、ここ最近の防犯に対する関心の高まりも追い風となっていることは間違いない。防犯というテーマと人々の関心がつながっているからこそ、これだけ多くの人々が参加しているのだろう。

また、一般的に世代間の交流や組織間の連携は難しいと言われており、それはまちづくり活動においても例外ではない。しかし、滋賀県大津市のある地区では、世代・組織の壁を越え連携を可能にしている。駅前に開発された高層マンションの新住民は新しい街に引っ越してきて、若者の暴走行為や我が物顔で公共の場を占有する態度に唖然とした。そこで、マンション住民が一丸となって防犯パトロールを始めるのだが、その活動が旧来からある周辺の自治会にも伝播していき、今では自治会の枠を越えた防犯活動となっている。それまで暴走行為に慣れてしまっていた住民も、防犯という分かりやすくかつ緊急なテーマを共有することで街の改善に動き出したのだ。なるほど、防犯というテーマと人々の関心がつながっているのだと感じさせる事例といえよう。

○つながり :「人と地域(スミカ)がつながる」

防犯活動の強みの一つとして、自分の暮らす地域が活動の舞台である点が挙げられる。防犯のために、自分と無関係の地域や犯罪多発地区に出向いて取り組むという話はあまり聞いたことがない。原則、活動のベースは自分の暮らす地域(スミカ)である。

前述の堺市では、一般の住民が参加できるパトロールから婦人会が中心に行うパトロールなど、様々なグループが活動しており、中でも「ヤングサポート隊」というグループがユニークである。その名の通り10代～30代の若者によって組織されたサポート隊は、暴走行為などにも注意を促すパトロールメンバーに、かつて暴走族で青春を謳歌したやんちゃな若者もいるというのだ。メンバーは同じ中学校を卒業した先輩と後輩の馴染みで活動に加わるというが、意外と思われる人を巻き込んでいる様子は、人と地域がつながっていることを感じさせる。

また、防犯をきっかけに始めた活動が、まちづくりへと発展している事例もある。前述の大津市では、「治安の安定と街の活性化は表裏一体」を合言葉に、『ジャズナイト』を月1回開催し、犯罪の無いまちづくりに取り組む。つまり、自分のスミカにおいて活動すること(=人と地域がつながること)が、地域への愛情を深め、防犯だけによらない幅のある活動につながっているのだ。

○つながり :「人と人がつながる」

防犯活動の世界で「わんわんパトロール」というものを近頃よく耳にする。犬の散歩がてら地域を見回る取り組みであるが、“散歩がてら”に象徴されるように、防犯活動に気軽に参加できる点が良い。飼い犬に隊員証を付けて歩くと、犬の散歩をするもの同士に自然と会話が生まれ、顔見知りになるようだ。また、ある地域のパトロールに同行した時のこと。そこで出会った婦人と、防犯のことや地域のことなど様々な話題に話がはずんだ。防犯活動に参加しなければ挨拶程度で終わっている隣人同士が、こうして自然につながっていくのだと感じ

た。

街と関係を持つといっても、かなめは人と人のつながりにこそあると思う。事実、訪問したどの団体の方も口々に「多くの人と知り合いになり、輪が広がっていることが嬉しい」と語られるのだ。

〇おわりに

以上、3つの「つながり」から、防犯活動に感じる勢いを整理した。これからも好奇心をそそるような「つながり＝街との関係」を注目していきたいと感じるとともに、「街との関係」の中心にいるのはそこに暮らす人々の集合体(NPOなど)であることも再認識した。当助成事業やその他諸々の活動が舞台とする街は、生きものなのだ。ゆえに、その街を知り柔軟に対応できるNPOの存在は欠かせない。これが、この一年間NPOの現場を訪問して感じたことだった。

美しい街並みの実現、心豊かになる街の実現　はたと自分の暮らす街を振り返った時に、お世辞にも豊かとは言えない見慣れた風景がそこにある。これから数年で劇的に変化するとも思えないが、防犯活動調査から得たものは、そうした閉塞感を超える力になりうると信じる。「街との関係」を模索し続けること、その主人公のNPOとともに歩むことを、私的まちづくりの図式として、今日も美しい街並み形成に思いを馳せる。